

白虎隊の「義」伝えたい

白虎隊の会

b y a k k o t a i n o k a i

会誌 12 号

Vol.11 2022年4月

白虎隊の「義」後世に



目次

本年度をふり返って	飯沼一元…………… 2
白虎隊の会ホームページの充実	飯沼一元…………… 3
山本英市会長を忍んで	飯沼一元…………… 4
佐藤一男氏を忍んで	石田明夫…………… 5
先祖・木村勝四郎も白虎隊と同じ年齢で	松崎寛志…………… 6
寄合白虎隊奮戦の地を旅して第2回	星野紀子…………… 7



発行者 白虎隊の会

会津大窪山	飯沼一元…………… 8
会津大窪山飯沼家墓地の改修	飯沼一元…………… 9
会津の見どころ第3回	石田明夫……………10
下関支部だより	吉井克也……………11
会津本郷焼と電信用碍子	飯沼一元……………12
本部便り	飯沼一元……………13
編集後記	飯沼一元……………14

今年度をふり返って

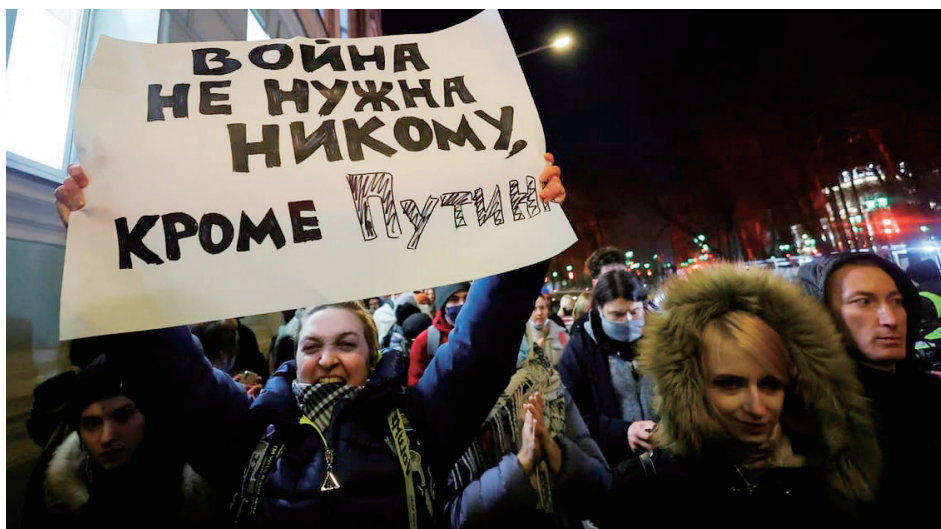
会長兼事務局長 飯沼 一元

世界中がコロナに蹂躪された一年でした。今年度は昨年が続いてコロナに明け、コロナに終わったなんともやりきれない1年でした。当初計画した行事は殆ど延期となりました。東京オリンピックはコロナ禍で賛否両論が飛び交う中で開催され、何とか乗り切りましたが心から感動する本来の平和の祭典とは程遠いものでした。

ウクライナ戦争

加えて2月からはウクライナで戦争が始まり、世界を震撼させました。独裁者プーチンの暴挙を断じて許すことはできません。この戦争はロシア対ウクライナではなく、**プーチン対世界**です。最大の被害者はウクライナ国民ですが、ロシア国民もまた被害者であって、今後百年以上に亘って世界から白い目で見られることでしょう。また、我が国をはじめ世界各国が経済的負担を強いられ・心理的被害を被ることになります。

ウクライナは旧ソ連時代（1932～33年）に大干ばつに見舞われましたが、独裁者スターリンが国境を封鎖して農民の国外への移動を禁じた上、小麦の強制徴収と出産を禁止したため、千三百万人（三百万～二千万との説もある）が意図的に殺害されたとされています。これほど多くの自国民を虐殺した例は他にありません。



ロシア国民の戦争反対デモ（2022/2/24）、その後戦争反対者には最長懲役15年の刑が施行され、強制収監が強化された。

ヒトラーはユダヤ人六百万人をホロコーストで虐殺しましたが、自国民の殺害は多くはありません。プーチンは大義名分が無いままウクライナを武力攻撃したので意図的な殺害と見做され、いずれ歴史の裁きを受けることになります。

白虎隊の「義」

本会の目的は「白虎隊の「義」」を後世に伝えることです。白虎隊の「義」とは「ならぬことはならぬ」の会津の教えであって、人として生まれた限り、あるべき規範を守り、筋を通した生き方を貫くことです。血気盛んな20名もの白虎隊士が一条乱れず肅々と自刃した理由はいわれないなき会津戦争の潔白を証するという大義名分があったからでした。このため、あの悲劇から百五十年以上経った今もその「義」を後世に伝えることができます。

相次ぐ訃報と役員の異動

令和3年8月6日に本会顧問で白虎隊に詳しい会津郷土史家の佐藤一男氏が逝去されました。同年10月27日には本会会長山本英市氏が逝去されました。本会では11月1日付けで、会長を飯沼一元に交代しました。また、監事の緑川正和氏が体調を崩されたため、森川敬寿氏に後任をお願いしました。

ホームページの充実他

当会のホームページはボランティアの手で細々と更新してきましたが、昨年資料館を一新し、会報や投稿論文等を掲載し充実させました。また、会津大窪山の調査と墓地改修を行いました。

会報は本会会員を繋ぐ欠かすことのできない絆です。報告事項が少ないのは残念ですが、会員3名から寄稿文を頂き、16ページの短縮版にまとめました。

以下のページに内容を紹介いたします。

ホームページの充実

会長兼事務局長 飯沼 一元

今年度は企画していた行事は全て無くなったので長年の懸案事項だったホームページの充実を図りました。

従来はボランティアに頼っていたため最低のメンテナンスもままならない状況でした。有償だが格安で頼める友人に概略の改変指示を出して見直しを繰り返しながら作業を進めました。これとて、掲載するデータは自分で作成しなければならいので結構時間がとられました。

会員の皆さんに役立ちそうな情報として会報と投稿論文を「資料館」に追加しました。会報は創刊号から11編とし、会員名簿は削除しました。また、投稿論文は会津人群像3編、会津史談会誌5編、会津会誌1編となりました。

白虎隊の会 会誌

タイトル文字をクリックすると、「白虎隊の会会誌」が表示されます。

印刷する場合は、表示されたブラウザの印刷機能を使って印刷して下さい。

白虎隊の会会誌 Vol.11



15MB

白虎隊の会会誌 Vol.10



5MB

白虎隊の会会誌 Vol.9



13MB

白虎隊の会会誌 Vol.8



5MB

白虎隊の会会誌 Vol.7



8MB

白虎隊の会会誌 Vol.6



14MB

会津米とコロナ対策



2021年 【8MB】

白虎隊の記念碑設置



2020年 【7MB】

白虎隊の全貌



2019年 【40MB】

会津と長州



2019年 【13MB】

会津と白虎隊



2017年 【14MB】

飯沼貞吉長州滞在説



2016年 【11MB】

日向君招魂碑



2013年 【12MB】

白虎隊の戦闘と 自刃の決定プロセス



2010年 【17MB】

山本会長を忍んで

会長兼事務局長 飯沼 一元

会報3号の掲載文を捧げます。
巻頭言「西郷頼母近慮は今」

会長 山本 英市

私は会津藩家老西郷頼母近慮（たのもちかのり、1830～1903）の次弟陽次郎直節（箱館戦争時は会藩遊撃隊頭取）の曾孫に当たります。

本会発足後まもなく病を得て、会務に携われぬ状態を誠に残念に思っていました。ところが、今年は「八重の桜」をはじめ頼母がドラマに頻繁に登場するので、隠居寸前状態から脱しなければの思いに駆られています。

頼母はドラマの重要な引き締め役として登場しますが、「あれはどこまで史実か？」と思われる方も多いと思います。「大河ドラマは史実の再現ではなくエンターテインメントです。これまで知られていない史実や埋もれていた人物たちに光を当てることによって歴史の“if”を想像して貰いたいですね」とプロデューサー氏は言います。私もこのドラマを通して頼母に対する新たな切り口が生まれることを期待しています。

会津西郷家は藩祖保科正之と「保科始祖」を共有し、兄系列が藩公、弟系列が家老という歴代筆頭家老職を担う藩の重鎮的存在でした。ところが、頼母は会津藩の京都守護職就任反対諫止を藩公に迫るなど、度重なる非戦和戦の進言が悉く藩公また藩の大勢と真向から対立し、蟄

居罷免を繰り返し、藩の異端者とされた経緯がありました。

頼母近慮は文政13年、西郷家十代近思（ちかもと、江戸家老 四男八女の長男として誕生。家老就任は文久2年（1862）の事であります。

欧米列強の侵略に備え、幕府は海防策に乗り出します（1793）。ここで幕府は会津藩に蝦夷（1806）、三浦半島（1810）、房総沿岸（1847）の防備を次々に命じ、会津は多大な犠牲を払ってひたすらこれに応じました。

この間、藩領内では2度の冷害飢饉、3度の若松大火に見舞われ、領民の疲弊と藩財政の逼迫は近慮の代まで続いていた。折りしも、桜田門外の変（1860）、生麦事件（1862）など国内は騒乱に向いつつあるこの時期に、筋違いの京都守護職とは…本来は越前藩が負うべきを徳川宗家忠勤第一の会津家訓を持ち出し、会津に押し付ける松平春嶽の姦計。内外情勢に明るい頼母が「薪を背負って火に飛び込むも同然」と年下の藩主松平容保公を必死で諫止した気持ちに私には痛い程分かります。

頼母は『栖雲記』という自伝的遺書を祖父重郎に残してくれました。書の大半は妻千重子（貞吉の父飯沼時衛の妹）ほか一族自刃のことが書かれています。千重子との間に一男、五女をもうけましたが、慶応4年（1868）8月23日、長男を城に送り出し、頼母の母、二人の妹

と共に殉死しました。これは白虎隊士が自刃したのと、同じ日のほぼ同時刻でした。

栖雲記末尾に「人の行為は善悪邪正共にその血統を評するものに候へば」と記しました。頼母の一貫した主張は不運不発に終わりましたが、誇りさえをもつ姿に血統に由来する矜持を感じます。

身内を全て失った頼母は後年姿三四郎のモデル西郷四郎武恵を養子にしました。「会津人は辛酸をなめながらも深い刻印を事蹟に残した。柔道や合気道のように力ではなく技と心を磨いて強くなる。そんな生き様が光る」。（日経2／4 春秋欄）の論評が胸を打つ。



戊辰140年祭の藩公行列で子孫隊の西郷頼母役を演じる筆者（2008年9月）

佐藤一男氏をしのんで

理事 石田明夫

白虎の会が、平成二十三年（二〇二一）に発足した時から「顧問」として活躍され、自ら「最後の山師」と称していた会津若松市の佐藤一男さんが、令和三年（二〇二一）病気により逝去されました。

佐藤一男さんは、昭和五年（一九三〇）喜多方市熱塩加納町宮川の会津石膏山（後の与内畑鉱山）の社宅長屋で生まれました。父の転勤で喜多方駅近くに移転し、福島県立喜多方商工学校電気科を卒業。卒業すると、生まれ育った与内畑鉱山に勤務、昭和二十四年（一九四九）からは、喜多方市の加納鉱山の地質調査を手始めに、黒森鉱山、黒岩鉱山、岩澤鉱山、与内畑鉱山の調査を担当しました。親子で育った与内畑鉱山は埋蔵量が少なかったことから鉱山は、閉山となり山を去ります。その後、全国各地の地質調査に携わるとともに、会津若松市一箕町石ヶ森の吹屋鉱区石膏所の新設をします。石ヶ森鉱山積出し施設は、今でも市道となっている滝沢街道脇に残されています。

昭和四十六年（一九七一）独立し、「共益社」を設立し不動産事業を始めますが、鉱山関係が専門であったことから昭和五十三年に建築設計事務所を設立、喜多方市と米沢市の境にある大

峠鉱山で石膏や金鉱開発のため大斗鉱業所を設立します。

しかし、昭和五十五年に鉱山事故が発生し、四名の犠牲者が出るとともに、佐藤さん自身も「くも膜下出血」で鉱山経営を断念し、同年、大峠鉱山は閉山となり「山師」を卒業します。

その後は、会津に三〇〇ほどあった鉱山に記録がほとんど無いことを憂い、鉱山系関係の豊富な知識を生かし、鉱山史、産業遺産の調査と記録保存をするようになります。その傍ら、喜多方市塩川町の郷土史研究を進め、住んでいた会津若松市東千石や会津地方の郷土史研究を進めるようになります。

佐藤さんとの出会いは、私が市教育委員会に勤務し、昭和五十六年に会津若松市文化財パトリール員制度を創設し、そのメンバーとして参加してもらうようになってからです。時間のある時に、佐藤さんと共に、会津地方の鉱山や遺跡、史跡の調査に出かけていました。

佐藤さんが、塩川町文化協会に所属していたことから、飯沼貞吉について、塩川や沼尻時代の様子が判明したのです。飯沼貞吉が八月二十三日自刃した翌日塩川に到着し、三本住庵が治療し、さらに長岡藩医が治療したことにより一

命をとりとめたのでした。そして、平成二十二年（二〇一〇）には、塩川町で喜多方市文化協会塩川支部として、佐藤さんの努力により飯沼一元さんの講演会開催となり、一躍、飯沼貞吉と喜多方市の関係が広く知られるようになりました。

その後も郷土史の研究、鉱山史の研究を精力的に進め、米国でUSA鉱山史協会総会に度々出席して発表するなどしていました。平成二十四（二〇一二）には福島県教育委員会より社会教育功労賞を受けています。その後、交通事故に逢い、後遺症により車の運転もしくなり闘病生活となったのでした。

改めて、佐藤さんの功績に感謝します。合掌



善龍寺境内で。前列左端が佐藤一男氏

先祖・木村勝四郎も白虎隊と同じ年齢で…

会員 松崎寛志（埼玉県吉川市）

私の先祖・上田一学（学太輔）二男・木村勝四郎は松平容保公の京都守護職の従軍として養父・木村熊之進（推測）と一緒に上洛しました。しかし、京都で戦死し、会津藩士殉難者墓地にお墓があります。没年は慶応二年九月となっています（写真参照）。

実のところ木村勝四郎の年齢がわかりません。勝四郎の兄・上田新八郎が奇勝隊隊長で慶応四年八月に20歳で戦死しました。そのことから弟・勝四郎は死亡時18歳位と思われます。しかし、慶応二年には大きな戦いが無いため病死も考えられますが、以前に西雲院の御住職（先代）から「当時は毎月のように二、三人亡くなっていますので、前の大きな戦いで負傷し、力尽きたのでしょね」とお話を伺い、妙に安堵したものです。

その様に考えると勝四郎が戦ったのは二年前の「禁門の変」の可能性もあり、当時16歳位と考えられることから、白虎隊と同じ年齢（16〜17歳）の少年だったと思うと感無量です。

その状況から、まだ少年だった勝四郎が京都在勤となった養父と一緒に京都へ行ったことにも疑問を持ちます。実は養父が木村熊之進であることも明確ではありません。会津歴史家の方

に先祖の木村家を調べていただいた際、母が知る幾つかの逸話から「木村熊之進（熊之助）」の名前が挙がりました。それは、木村家の屋敷はお城のすぐ東側にあったこと。勝四郎が木村家に養子となった際、子供の名前を養父の名前「熊」の一字をもらって「勝彦」から「熊太郎」に改名したと伝わっていたことなどです。



木村勝四郎の墓、京都金戒光明寺
会津藩士殉難者墓地

また屋敷跡を調べると、木村熊之進の屋敷は幕末の城下図に無く、安政五年の役名録高住所明細に内小田垣二番丁西ヨリ（鶴ヶ城東側の堀）に「木村熊之進（三百石）」が記載されています。木村熊之進は京都滞在のため屋敷を藩に返上したのではと会津歴史家の方も話されていました。なお、木村熊之進を調べると、文化十四年生まれ、文武に秀でたが物頭・組頭にとどまり人

に惜しまれる。戊辰戦争では（軍事奉行添役の任）朝廷への恭順を主張したが受け入れられず藩に従う。慶応四年五月一日に白河の戦いで死去。五十二歳。名は重光。字は中羽、号は蕉陰とあります（引用…デジタル版日本人名大辞典）。改めて養父・木村熊之進を尊敬します。

梶原家、木村家、横山家…との親戚関係

木村熊之進（重光）は七代目木村又右衛門重徳を父とし、母は上田家六代目上田右膳（兼揮）の孫娘であることから、養父の木村家と縁戚関係から勝四郎（二男）が木村家へ養子になったことも頷けます。また、その上田右膳（兼揮）の娘が木村忠次（忠央）へ嫁ぎ、この系譜木村家の初代が木村忠次で息子が忠成です。他に横山家の六代目横山主税（常德）は上田一学（学太輔）の祖母の兄弟に当たり、横山家との繋がりもあることが分かりました。

なお、唯一血縁にあるのは梶原家です。数代に渡り梶原家から上田家に嫁ぎ、直近では梶原平馬（景保）の娘が上田一学（学太輔）の母であり、梶原健之助（景範）の養子になった内藤家二男の梶原悌彦（景武）は従兄弟関係になります。

ちなみに上田家のお墓は天寧寺ですが、木村家の初代木村忠次・忠成氏と横山家の横山主税（常德）氏のお墓が会津大窪山墓地にあることが分かりました。機会があればお墓参りに行きたいと考えています。

寄合白虎隊奮戦の地を旅して第二回

会員 星野紀子（東京都）

慶応四年八月十一日白虎寄合二番隊は阿賀野川沿いの佐取村（新潟市五泉市）の戦から敗走し対岸の石間関門（新潟県阿賀町）の胸壁で防戦した。一方、寄合一番隊が参戦した新発田藩

国境付近の赤谷口・新谷の戦で会津軍は敗走し、両隊は奇しくも同時期八月十五日に会津藩領西側玄関口・津川代官所へ戻った。現在跡地は狐の嫁入り屋敷になっている。津川は川港として栄えた所で雁木造り発祥の地。現在も街並みに風情が漂う。会津軍は舟筏を収容していた為、西軍は阿賀野川を渡ることが出来ない。津川と下流の五十島を死守する攻防線が始まり、寄合白虎両隊も尽力した。

八月二十三日、陣将上田学太輔の元に母成峠の敗報が入り、容保公と喜徳公の安否確認、本城の指揮を仰ぐ急使を派遣。一番隊高崎駒之助（十六歳）が津川で負傷し八木山（阿賀町）へ搬送（二十五日落命）。若松方向から砲煙あがるの報せを受け津川の会津軍は防戦を続けるか、城下へ総退却か選択を迫られ後者に決定。引き揚げの途中、派遣した急使が八木山で陣将上田に復命した。「城は東方から諸隊が引き上げ防戦成る。城に入るのは困難。西方を死守せよ。」急使は若松から一里の高久村の陣将萱野権兵衛に面会した内容を報告。今すぐ城へ向かうべきか、留まり防戦すべきか再び決断を迫られた結果、

会津平野の入口である只見川を挟んでの防衛に決定した。

八月二十六日、東松峠の会津軍は峠上から若松城下の砲煙を見る。会津戊辰戦史には「この惨憺たる光景を目撃して痛恨に堪えず」と記載されている。東松峠は地元の尽力により旧道がほぼ残されており遠く若松を遠望できた。落士達の憤りと焦りを思う。峠上付近に当時の塹壕跡が残されている。

会津軍は只見川を渡り舟渡（河沼郡会津坂下町高寺舟渡）へ。船をつないで作成した橋を切断し沿岸の舟筏を収めた。現在舟渡と対岸の片門を結ぶ大きな橋が架かっているが、広い川幅に落差のある崖はまさに防衛拠点と感ずる場所である。一番隊は遊撃隊と共に舟渡と北に位置する窪村（河沼郡会津坂下町高寺窪）へ胸壁を築き布陣した。舟渡からやや傾斜を登る窪村への旧道が一部残る（案内版あり）。窪村は東側に山裾、西側が只見川に挟まれ狭い平地で砲撃を遮るものはない。

八月二十八日、西軍が対岸の片門へ到達。只見川沿いの小高い山に大砲を据え舟渡へ砲撃。会津兵は塞を川岸に連ね、地に穴を掘り、雨のように降り注ぐ砲弾を避け防戦。二十九日一番隊の星八弥（十六）、黒河内八十記（十七）が戦死。戦況は九月五日まで膠着状態となった。

九月一日、舟渡から南に位置する朝立村（河沼郡会津坂下町坂本村）に布陣していた二番隊は、川向の藤村に襲来した敵と対峙。山本太郎（十七）、鈴木平助（十七）が戦死した。

九月五日、若松城攻めの西軍のうち薩、長、土ら七藩から選出された一軍が会津坂下に入り、舟渡の会津軍背後を衝くように進撃。坂下町気多宮の街道道標にはこの時被弾したと思われる弾跡が残る。窪村北方の大原（喜多方市高郷町大田賀大原）に本陣を置いていた陣将上田は、止む無く南北に退却を命じる。同日窪村で一番隊岸彦三郎（十七）が戦死。隊長原早太率いる一番隊の主力は窪村から慶徳町山科山崎を経由し小荒井（喜多方市）へ向かい、会津軍と合流した。隊長太田小兵衛率いる二番隊は朝立村から退却、一番隊の半隊長佐藤清七郎ら隊士十四名は舟渡から南に退却し、朝立村付近で二番隊と合流、中田（根岸中田観音）を経て三の丸から入城を果たした。寄合白虎隊は重要拠点津川から只見川の攻防戦においても死力を尽くしたことがよくわかる。



片門から舟渡を望む



東松峠の塹壕跡



被弾した道標

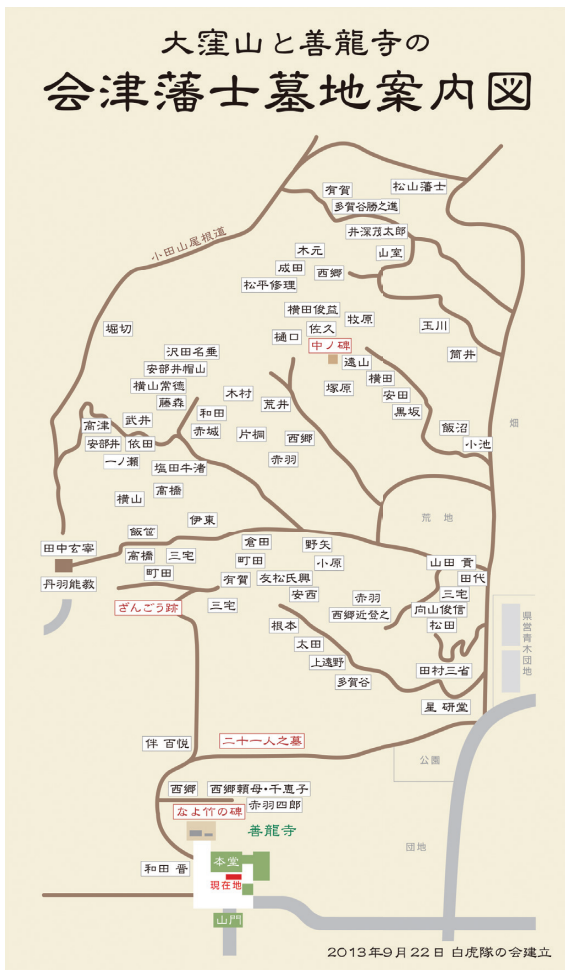
会津大窪山墓地

会長兼事務局長 飯沼 一元

旧会津藩大窪山共同墓地は1643年(寛永20年)に保科正之によって創始された。当時、藩では火葬の風習を改めて土葬を推奨し大窪山、郷之原坊主山、小山の三ヶ所に埋葬地を設けた。郷之原、小山の両墓地は主に商、職人用で、現在真新しい墓碑の林立する近代墓地に変わっている。

一方、大窪山は中・下級会津藩士用とされ、戊辰の役で藩が崩壊し家族が四散して放置されたため、多くの墓碑の倒壊・埋没が目立つ。しかし、当時の埋葬形式等を保った基数約四千という藩政墓地は全国的にも珍しく、墓地全体が市指定文化財になっている。

大窪山は交通不便で訪れる人は少ない。アップローチの手がかりは「な与竹の碑」で有名な善龍寺である。白虎隊の会では2013年に石田明夫氏の協力を得て、善龍寺境内に墓地案内図を設置し、訪問者の一助とした。大窪山墓地は善龍寺の裏山一帯に広がっている。以下に、考までに4基の墓を掲載しておく。



大窪山墓地案内図 (善龍寺境内社殿前に設置)



西郷頼母 (保科八握監)
妻飯沼千重子の墓



西郷近登と妻の墓、陥没し肩寄せ合っているように見える



横山主悦の墓



伴百悦の墓

大窪山飯沼家墓地の改修

会長兼事務局長 飯沼 一元

会津若松市の大窪山には飯沼家代々の墓が21基あるが、墓参したことがある人はごく僅かである。西郷家の墓のように善龍寺の近くにあれば別だが、猪や熊などが出没する急斜面の登り道を四百メートルも分け入らねばならず、入口を間違えると迷子になるので案内人を探して頼むしかない。

そこで、今般、少なくとも飯沼家の関係者なら誰でも墓参できるようにしようと石田明夫さんと塩川で石材店を営む白虎隊会員の古川善弘さんをお願いして調査を開始した。当地は国指定の保存地区であり、工事にはいろいろな制約がある。

調査内容は、①飯沼家墓地入口に目印をつける方法。②高齢者でも参拝できる方法。③墓地の設立経緯や埋葬者の血縁関係が分かるようにする方法、とした。

昨年3月に現地を案内してもらったところ初代が誰でいつ墓地を取得したのかや21基の墓の血縁関係が分からない。飯沼貞雄が残した初代からの家系図を読み解くと欠落している当主もあることが判明し、4月に現地の再調査を余儀なくされた。

その結果最古の墓は初代伊兵衛重友の妻（霊

号…宗順孺人）で1670年頃に建てられ、その後、歴代の当主および家族の墓が建てられたが、戊辰戦争で中断したこと、明治44年になって飯沼貞雄が父母・兄・長男・叔父の墓を追加したこと、第6・7・9代の墓が欠落していることが判明した。

そこで昨年9月に左記の改修工事と新設した3人の墓の魂入れ供養を実施した。
会員の皆様のご参考になれば幸甚である。

1. 墓地入口に目印となる石柱を設置
2. 墓地への階段の設置
(15段、高さ3m、長さ5m)
3. 説明版の設置



設置した階段と魂入れ供養神事参加者



飯沼家墓地途中にある供養塔



墓地入口に設置した石柱



新設した3人の墓

会津の見どころ第3回

鶴ヶ城編②

石田明夫

前回に引き続き、鶴ヶ城の見どころや隠れたスポットを説明します。

一 西出丸

西出丸は加藤明成が、寛永十六年（一六三九）に大改修するまでは、今の半分の大きさしかなく、石垣は西大手門部分だけで、他は土塁でした。農民や商人は、西出丸までは入ることができませんでした。

① 西大手門 戊辰戦争、慶応四年（一八六八）

八月二十五日、山川大蔵隊が北会津小松の彼岸獅子を偽装して入城に成功した門。西軍は楽隊の先導者を彼岸獅子にしており、服装は西軍、会津藩とも黒の洋装で見分けが付かなかった状況での山川の機転でした。

② 伊達政宗毒殺事件の場所 天正一八年（一五九〇）

四月五日、伊達政宗が弟の小次郎と母によって、毒殺されそうになったのは、西出丸の真ん中付近にあった西御殿が事件の場所。毒見役が死亡しています。

③ 贖金を作った蔵 戊辰戦争時、慶応四年（一八六八）

四月一九日、江戸幕府老中小笠原長行と山川大蔵が御薬園で相談し、西出丸駐車場や南にあった蔵で鑄造。家臣や町人などから集めた金の装飾品を溶かして、海老名軍

治が飾り職人を集め、百二十万両（約六十億円相当）の金貨、銀貨を鑄造。半分は、金・銀の装飾品を出してくれた家に返却、残りは軍資金にしました。

④ 内讃岐門 西出丸南側の門。加藤明成が西出丸を改修した時、故郷の松山方面に位置することと、外堀に外讃岐門があることから内讃岐門と名付けられました。片方の石垣は、明治時代に取り払われています。

天保三年、年号石垣 西出丸の石垣外側、水堀に面するところに「天保三年（一八三二）」の刻字が掘られた石垣があります。改修年号を残したものです。

城に入る合言葉 戊辰戦争の時、娘子隊の中野竹子の母、幸子が西出丸の大手門に入る時、合言葉が入っています。それは「山」と「川」でした。会津藩では中道りで別の合言葉が使われていることから場所により異なっていました。

梅坂・知期理坂 小田垣台地上の先端部に位置する本丸・帯郭に通じる坂。両側に塀があったが朽ち果てた後は、建て替えずに梅の木を植えていたことから梅坂という。

二ノ丸 二ノ丸東側の門で、門は北側石垣にあった。南側石垣は明治時代に取り払われています。

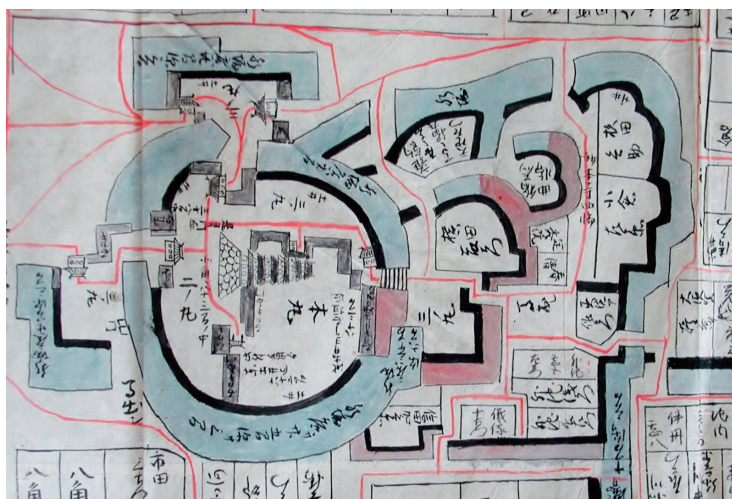
二ノ丸

① 東門 二ノ丸東側の門で、門は北側石垣

にあった。南側石垣は明治時代に取り払われています。

② 合坂・武者走り 二ノ丸東門から入ると北側に土塁があり、坂があります。土塁の両側に素早く登れるようにしたものです。

③ 伏兵郭 二ノ丸の東門から入ると北側に土塁があり、その奥に位置する。蒲生忠郷時代までは、北出丸の東に土橋があり、そこから入れたが改修され、土橋は撤去されました。



蒲生時代の鶴ヶ城の絵図。 絵図の色は
赤線：道路、赤色：空堀、灰色：石垣、黒色：土塁

下関支部報告

支部長 吉井克也

一 はじめに

新年も、新型コロナウイルススオミクロン株の猛威の中で始まりましたが、皆様には如何お過ごしでしょうか。

下関支部は、昨年度に続いて、本年度も自粛を余儀なくされた年になりました。総会や研修会も中止し、五月の連休明けには、支部長が久しぶりに会津を訪問し、懐かしい方々とお会いすることになっていた計画も直前に取りやめました。下関支部が格別お世話になってきた佐藤一男先生のご逝去は、下関支部にとって悲しみの極みです。ご冥福を心からお祈りいたします。

二 事業報告

- (1) 五月六・九日 支部長会津訪問中止
- (2) 五月二二日 神戸岩蔵墓・恩愛の碑整備活動

- (3) 六月十日 下関支部10周年記念誌作成
- (4) 八月二日 神戸岩蔵墓墓参
- (5) 八月一八日 恩愛の碑草刈
- (6) 十月一五日 小杉の人々と恩愛の碑草刈・地元厚保小児童訪問、ガイド

- (7) 十月十七日 福島県川内村の環境活動家西山千嘉子氏が郷土史家平山智昭先生方と恩愛の碑来訪、ガイド

- (8) 十月二十日 海峡裏町文化塾講演「会津の傷は、いまだ癒えず」 支部長

- (9) 十月二四日 赤間関街道ガイドウォーク第二ステージご一行四十名恩愛の碑訪問、ガイド

ド

- (10) 十一月七日 赤間関街道リレーウォーク第三ステージご一行四五名恩愛の道紹介

- (11) 三月白虎隊の会下関支部総会予定

三 主な出来事

- (1) 五月の整備活動は昨年同様、神戸岩蔵墓は八時に作業開始、終了後は美祢市に移動して、十時から榑崎屋敷跡作業開始と二ラウンド制で行いました。今年も美祢市からは市長様や教育次長様方六名が草刈機を持って参加され、恩愛の碑周辺は見違えるようにきれいになりました。



神戸岩蔵墓参助ご子孫



神戸岩蔵墓参助ご子孫

- (2) 恩愛の碑来訪者等

地元の方から「恩愛の碑には、しばしばお客さんが来られるよ」と今年も嬉しい話を聞きました。また、記念植樹の「会津の身知らず柿」が初めて実をつけたことも嬉しいできごとでした。



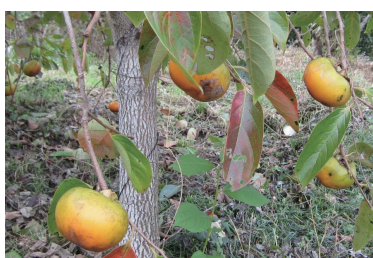
厚保小訪問



赤間関街道中道筋リレーウォーク



西山千嘉子氏訪問



会津身知らず柿

四 おわりに

新型コロナの収束が見えませんが、下関支部は焦らず急がず、「下関の中の会津」を護持し発信してまいります。

会津本郷焼と電信用碍子

会長兼事務局長 飯沼 一元

本会で実施してきた記念碑等の設置場所は会津若松市内が中心でした。塩川に「飯沼貞吉ゆかりの地碑」を設置したのが令和元年で、以降はコロナの影響で中断を余儀なくされている。昨年から候補に提案されているのが「会津本郷焼と電信用碍子」で設置場所は会津美里町である。実施がいつになるかは不明であるが、本稿ではこのテーマの解説をしておく。

会津本郷焼は蒲生氏郷・保科正之が着目奨励した4百年以上の歴史を持つ会津の伝統的な焼き物で若松市から約十キロ西の美里町が本場である。

日清戦争が始まる前年の明治26年12月、陸軍省は会津の本郷焼工場に小型碍子1万2千個を発注、翌年10月には普通碍子2万2千個、続いて軍用碍子1万個を発注した。碍子とは、電柱に電線等を固定するための部品で、絶縁性と堅牢性に優れる磁器が用いられる。用途は主として微弱な電信用と高圧の電力用がある。

我が国の碍子製造は佐賀の有田焼が嚆矢で、幕末期にイギリスに人を送り電信用碍子技術を習得し、その後、香蘭社を設立して、碍子の独占供給を行っていた。

では会津本郷焼が何故佐賀の有田焼に対抗できたのか？その裏に二人の白虎隊士の活躍があったことはあまり知られていない。電信用部品調達は通信省大臣官房調度課の管轄である。飯沼貞雄は明治25年から通信省の東京電信局勤務。当時貴族院議員だった山川浩から貞雄に「会津本郷焼きの電信用碍子が出来ないか」との打診があつたと思われる。

しかし、当時の通信省幹部は佐賀藩出身者が多く、後発の会津本郷焼を押し込むのは大変だった。碍子は電信の最重要部品である。特に朝鮮のように激しい気温の変動や風雪で碍子が破損・浸水すれば、電信障害を起こし軍用として致命傷になりかねない。

明治5年に電信架設に手を染め、下関・小倉・広島など20年の経験を積んだ貞雄は碍子の要諦を知り尽くしていたであろう。そこで、開発品の性能目標を適確に指示した上で、試作品を作るように本郷に依頼した。これに応えたのが樋口彦四郎だった。彦四郎は白虎士中一番隊に属し、籠城戦にも加わった人物で、維新後移り住んだ長野で畜産会社を経営しながら、電圧碍子の製造工場を会津に設立し、碍子の技術革新に

注力したのである。

これらの経緯は九州大学の宮地英敏教授の「論説・会津製碍子の官需への採用」に詳しい。宮地論説では、本郷焼が成功した理由に製造コストが安いことを指摘している。一般に焼き物は素焼きと浸水を防ぐ本焼きの二工程が必要だが、本郷焼は手間のかかる素焼き工程無しで製造できるとしている。また、会津本郷陶磁器業史編「会津本郷焼の歩み」には、山田恒三郎談として、受注に成功した後、貞雄は樋口彦四郎らと痛飲したと書かれている。

これらの軍用碍子は、日清戦争で気温差の大きい朝鮮の地で威力を発揮したと思われる。



電柱に取り付けられた碍子。
但し、最近の電力線用。

本部だより

1. 会員

2021年度の新入会員は2名（昨年比（0）でした。逝去者は3名（佐藤一男氏、山本英市氏、小日向輝夫氏）、退会者2名で共に名簿から削除しました。その結果、2022年3月末現在、名簿登録会員数は101名（－4）となりました。内訳は一般69（＋1）、特別会員（役員を含む）32（－4）。地域別内訳は会津20（＋1）、東京36（0）、下関13（＋1）、京都7（0）、長崎4（0）、仙台7（＋1）、その他18（－2）名となりました。

2. 活動

主な活動実績は表に示すとおりです。

年月日	主な活動（予告を含む）
2022年9月24日	（予定）会津秋まつり
2022年9月23日	（予定）白虎隊の会記念碑設置
2022年4月16日	（予定）会報第12号発行
2022年4月2日	（予定）年次総会（インターネットで）
2021年11月1日	白虎隊の会会長を山本氏から飯沼に交代
2021年9月4日	会津会大窪山飯沼家墓地改修に伴う神事実施
2021年4月27日	会津会大窪山墓地視察
2021年4月24日	春の飯盛山墓前祭休会
2021年4月16日	会報第11号発行
2021年4月2日	年次総会（インターネットで）

3. 決算報告

今期は事業関係の支出はありません。広告費は会津会々報に毎年見開き2ページの広告を出稿しています。多額のご寄付を頂いた方に感謝申し上げます。

白虎隊の会		貸借対照表		単位 (円)	損益計算書			単位 (円)
資産の部	1,606,712	負債の部	0		収入の部		支出の部	
現金及び預金	1,606,712	未払金	0		会費	222,000	HP 管理	85,249
未収入金	0	負債の部合計	0		寄付	177,000	会誌発行	121,046
		前期繰越残高	1,431,761		書籍代	10,000	広告費	40,000
		今期損益金	174,951		会報売上	32,540	説明版設置	0
		次期繰越残高	1,606,712		助成金	0	通信費他	20,294
資産の部合計	1,606,712	負債純資産合計	1,606,712				今期損益金	174,951
会計監査	令和3年3月31日現在				合計	441,540		441,540

会計監査

令和3年度の決算報告書及び預貯金記録を照合精査した結果、いずれも誤りなく執行されていることを認めましたので、ここに報告いたします。

令和4年3月31日 会計監査役 森川 敬寿

4. 2022年度の計画

新規会員獲得目標5名、総事業費は50万円を予定。

1. 会津藩滝沢本陣近くに白虎隊出陣・帰還の地記念碑を設置し序幕（石田他）
2. 会津美里町に会津本郷焼と電信用碍子の記念碑を設置し序幕（飯沼他）
3. 1年後の戊辰155年に向けて、子孫隊出陣の準備開始（森川）ほか

白虎隊の会 設立趣意書

会津白虎隊は1868年（慶応4年）3月1日に会津藩の最年少軍隊として組織され、戊辰戦争で皇国への義を掲げて、新政府軍と戦いました。

数え年16～17歳で編成された白虎隊は総勢約300名で、うち約30名が戦死し、17名が飯盛山で自刃しました。

彼らはこの戦いで、会津の教え、を健気にも最後まで守り通しました。

会津の教え、とは『ならぬことはならぬ』に象徴される生活の掟でした。

いつ、いかなる場面でも『義』をもって生きることが彼らの行動規範でした。

生き残った白虎隊士の多くは、国賊の汚名を着せられ、流罪となり、死んでいった戦友たちへの忸怩たる思いを抱きながら、艱難辛苦に耐えました。

一方、会津白虎隊の壮烈果敢な行動は「皇国への犠牲」としてモデル化され、戦争に利用されました。

あれから144年、会津白虎隊士の子孫は4代目から5代目を迎え、情報は散逸し、史実は風化しつつあります。

しかし、白虎隊物語は、日本人の心の中に生かし続ける必要があるのではないのでしょうか？

私たちは白虎隊の『義』を現代および将来に伝え、広めることを目的として、【白虎隊の会】を設立しました。

この会は、1.調査・研究、2.交流、3.事業企画 の3つを中心に会員自らの活動を原動力として推進いたします。本会の運営は会則に示すとおりです。入会資格は問いませんので、趣旨に賛同いただける方の入会を切にお待ちいたします。

2010年4月1日

【白虎隊の会】設立発起人一同
文責 発起人代表 飯沼一元

《編集後記》

コロナに加えて、ウクライナ戦争が世界を恐怖に陥れています。

第一次・二次世界大戦で7,000万人もの命を奪った反省のもと、100年かけて自由と平和を希求してきた世界に対して、独裁者プーチンは歯車を逆回転させ、暗黒の20世紀に逆戻りさせようとしています。

白虎隊の会は世界平和を求めて活動します。理不尽な振る舞いを断じて許すことはできません。

私たちは先人の多くの犠牲と先人が残した知恵の上に生きています。

「ならぬことはならぬ」という「筋・ケジメ」の大切さを実感します。

戊辰戦争で散った白虎隊士に学ぶものがあると信じ、白虎隊の会を立ち上げて12年。“義”に生きた白虎隊士の思いを現代に伝えたい。

会誌第12号を皆さんの協力により、発行することができました。継続は力なりと自分を戒めながら、老骨に鞭を打っています。

2022年3月 飯沼記

♪白虎隊の会について♪

★入会は自由です。入会金は無料・年会費は三千元です。

5年分一括納入へのご協力をお願いしています。

郵便振込先加入者名：白虎隊の会 □座記号番号00100-1-616556

【白虎隊の会】事務局

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘2-24-14 TEL:03-3429-6652 FAX:03-3429-6654

発行責任者 事務局長 飯沼一元

ホームページを変更しました：<http://byakkotai.club/>

検索